

活動報告

平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会学術活動

長岡中央総合病院検査科；臨床検査技師

佐藤 雅哉

平成30年度にJA新潟厚生連臨床検査技師会が企画運営した学術活動を報告する。「JA新潟厚生連臨床検査技師会新人研修会」、「JA新潟厚生連臨床検査技師会輸血実技講習会」、「JA新潟厚生連臨床検査技師会春季研修会」、「JA新潟厚生連臨床検査技師会生理研究班研修会」、「JA新潟厚生連臨床検査技師会秋季研修会」の5研修会を行った。

今年度は11名の技師が採用され、5月に新採用技師8名参加のもと新人研修会が行われた。6月から始まる日当直業務に向けて、担当部署以外の業務について学べる貴重な研修会である。職場での接遇、心構えなど検査業務以外の重要な事項の再認識の場でもあり、多くの新人を迎え入れる技師会としても新人教育は最も必要であると考えられる。受講された新人技師には各々の施設でさらに成長し、地域医療を担い支える一員として職場内での信頼を得るとともに日本臨床衛生検査技師会などでの幅広い活躍を待望する。

輸血実技講習会は今年度で3年連続の実施となった。長岡中央総合病院にて参加人数15名で行われた。輸血検査の基礎的な知識と、基本的な内容の習得を目標に主に新人に対する教育として重要な講習会である。緊急輸血時などの医療過誤防止の観点から、今後も継続して行われることが望ましいと考える。

春季研修会は130名の参加があった。特別講演では、悪性リンパ腫を理解するための基礎知識～リンパ系のしくみから可溶性IL-2レセプター [sIL-2R] の意味するところ～と題し、積水メディカル株式会社検査事業部統括部カスタマーサポートセンター学術・技術グループマネージャー服部和久先生より講演頂いた。リンパ系のしくみから悪性リンパ腫の基礎知識の説明、リンパ球が活性化する疾患で高値化する可能性がある可溶性IL-2レセプターについて情報提供があった。

生理研究班研修会は長岡中央総合病院を会場に、受講者48名で「腹部超音波検診マニュアル」について労働衛生医学協会の関根厚雄先生から講義して頂いた。2014年に発表された上記マニュアルを普及し、腹部超音波検査の判定基準共通化を目的に行われた。実際に超音波装置を用いてのライブデモも行われ、診断の一助として役立つ研修会であった。

秋季研修会では、特別講演は日臨技常務理事をお招きしご講演頂いた。現在、臨床検査技師が活躍する急性期病床という最大のフィールドは今後減少していくという事実を認識し、専門性が増す医療現場でチーム医療の一翼を担い、貢献していかなければならない。一人一人が感じ、考え、行動することの重要性を再認識するとともに実行するためにはマンパワーの必要性も強く感じる内容であった。一般演題も7題と多岐にわたり、参加人数は138名に達した。

日本医学検査学会、北日本支部医学検査学会、新潟県臨床検査技師会主催の県や各地区の学会及び研修会にも例年通り参加した。第67回日本医学検査学会は『Let's go this way —その道を進もう—』をメインテーマに、サブテーマを「多様な役割のなかで、新たな存在価値を示す」として静岡県浜松市にて5月12日(土)・13日(日)の両日に開催され、当検査技師会からは7名が参加した。第7回日臨技北日本支部医学検査学会は挑戦と飛躍をテーマに青森県青森市のリンクステーションホール青森にて11月10日(土)・11日(日)の両日に開催され、当検査技師会からは代表派遣5名が参加した。資質向上を図り、臨床検査の進むべき方向性を考えるためにも学会に参加することは貴重な機会である。

今後も様々な学会や研修会を通じて、最新医療の知識や技術を習得していくことが求められる。在宅医療や、病棟業務など臨床検査技師として活躍の場を広げるためにも、まずは自発的に行動し学習する姿勢を継続することが重要である。JA新潟厚生連本会の学会、研修会派遣への御理解と御協力に深謝する。

以下に平成30年度の各研修会活動内容の詳細を示す。(所属病院、役職、姓名は研修会当時のものである)

【平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会新人研修会】

日時：平成30年5月12日(土)

会場：JA新潟厚生連長岡中央総合病院 講堂及び各検査室

内容：(部門)	(講師)	
接遇「職場での接遇・心構え」	古俣 直樹	会長 (長岡中央総合病院)
厚生連・技師会の概況と現状	山宮 龍一	副会長 (新潟医療センター)
血液検査	山本 泰子	技師 (佐渡総合病院)
微生物検査	藤田 勝嘉	主任技師 (上越総合病院)
生化学検査	江口 克也	主任技師 (長岡中央総合病院)
実技講習 生理部門	寺島 健	主任技師 (小千谷総合病院)
	小池 信代	技師 (柏崎総合医療センター)

植木 基彦 技師 (けいなん総合病院)  
佐藤 治子 技師 (長岡中央総合病院)  
一般部門 …吉田 賢一 主任技師 (小千谷総合病院)  
石橋美由紀 技師 (長岡中央総合病院)

(受講対象者…8名)

瀧澤 悠太 (糸魚川総合病院)  
樺澤 政也 (上越総合病院)  
小林 泰生 (上越総合病院)  
福田 祐介 (柏崎総合医療センター)  
城沢 真衣 (柏崎総合医療センター)  
伊藤 結子 (小千谷総合病院)  
本間 優里 (長岡中央総合病院)  
大竹由紀子 (佐渡総合病院)

[順不同]

要旨：今年度の新採用者8名参加で新人研修会を行った。接遇・心構え、厚生連・技師会の概況と現状について会長、副会長から講義があった。また、各検査部門について基礎的な内容を中心に講義が行われた。生理部門と一般部門については実技講習があり、心電図、尿沈渣についても理解を深める貴重な研修会となった。新人受講者は今後も積極的に学会、研修会などに参加し、認定資格の取得や演題発表など、自己研鑽に励んで頂きたい。

【平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会輸血実技講習会】参加人数：15名

日時：平成30年6月2日(土)

会場：JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 5ブロック会議室

講師：4名

小林由佳里 (小千谷総合病院) 佐藤 雅哉 (長岡中央総合病院)  
中東 哲夫 (村上総合病院) 笠井恵美子 (佐渡総合病院)

受講者：11名

瀧澤 悠太 (糸魚川総合病院) 樺澤 政也 (上越総合病院)  
小林 泰生 (上越総合病院) 福田 祐介 (柏崎総合医療センター)  
城沢 真衣 (柏崎総合医療センター) 伊藤 結子 (小千谷総合病院)  
奈良 佳輝 (長岡中央総合病院) 本間 優里 (長岡中央総合病院)  
渡辺 美絵 (新潟医療センター) 吉田 智子 (新潟医療センター)  
大竹由紀子 (佐渡総合病院)

要旨：今年度の新採用者8名に加え、希望者3名で輸血実技講習会を行った。講習会の目的は輸血検査の基礎的な内容を理解し、基本となる用手法(試験管法)を正しく身に付け、さらに緊急輸血に対する考え方、知識を得ることである。受講者をグループ分けして2~3名に対して1名の認定輸血検査技師が講師となり行った。午前は血液型検査を中心にを行い、3検体(裏試験の凝集が弱い検体、Rh(-)検体、部分凝集検体)を各自で検査した。血液型判定、異常反応の有無・原因、追加検査、情報収集を含む対応等について記述してもらい、グループ内で検討、説明を行った。午後からは不規則抗体スクリーニングと不規則抗体同定検査を行い、その臨床的意義についても知識を深めることができた。また、4検体それぞれについて、緊急時に用いる血液製剤の選択順などについても理解を深めることができた。輸血検査は安全で適正な輸血療法が実施されるために非常に重要な検査である。厚生連臨床検査技師会としても、新人教育と医療過誤等の防止の観点から、認定輸血検査技師から直接指導を受けることはとても重要であると考えた。

【平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会春季研修会・総会】参加人数：130名

日時：平成30年6月16日(土)

会場：JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 講堂及び各検査室

・特別講演

【悪性リンパ腫を理解するための基礎知識】

(リンパ系のしくみから可溶性IL-2レセプター[sIL-2R]の意味するところ)

積水メディカル株式会社 検査事業部統括部 カスタマーサポートセンター

学術・技術グループマネージャー

服部 和久 先生

・一般演題

座長…白旗 厚 技師(三条総合病院)

1. 【抗JMH保有が推測される症例を経験して】

～高頻度抗原に対する抗体が疑われた場合の対応～…中原 万里 技師(佐渡総合病院)

2. 【H.ピロリの検査及び除菌数の推移と市民講座を開催して】

- 座長…小池 信代 技師（柏崎総合医療センター）  
 3.『肉芽腫性乳腺炎の一例』 …市野瀬 収 技師（村上総合病院）  
 …西村 祥子 技師（長岡中央総合病院）

・分科会

<一般検査研究班> 参加人数：12名

議事

- ・新役員の選出

講義

『尿中アルブミン検査の重要性』 栄研化学株式会社

<微生物研究班> 参加人数：11名

講義

『血液培養のベストプラクティス』 日本ベクトン・ディッキンソン株式会社

<血液研究班> 参加人数：15名

講義

『初心者のためのフローサイトメトリー～原理と臨床検査におけるデータの見方～』  
 ベックマンコールター株式会社 高野 邦彦 先生

<病理細胞診研究班> 参加人数：12名

講義

『Cellprep システムとその応用例のご紹介』

ロッシュ・ダイアグノスティクス株式会社 学術担当 中村 恵 先生

<生化学研究班> 参加人数：12名

講義

『試薬採用のポイント～試薬の選定、導入における注意点～』  
 株式会社 LSI メディエンス

議事

- ・生化学運営規程の確認
- ・各施設の分析機器、試薬の確認
- ・全自動キャピラリー電気泳動システム（フィンガルリンク株式会社）のデモ機について
- ・SNCS/eQAPi グループマネジメントレポート（シスメックス株式会社）について

<生理研究班> 参加人数：40名

講義

『神経伝導検査 手根管症候群について』 日本光電株式会社 斎藤 昌伸 先生

・総会

◎平成30年度役員（所属は当時）

- |                          |             |
|--------------------------|-------------|
| 技師会長…古俣 直樹（長岡中央総合病院）     |             |
| 副会長…山宮 龍一（新潟医療センター）      | …（組織）担当     |
| 副会長…安藤 昭子（豊栄病院）          | …（学術）担当     |
| 事務局長…坪谷 貴治（佐渡総合病院）       |             |
| 事務局長…佐藤 雅哉（長岡中央総合病院）     |             |
| 役員…阿部 健司（糸魚川総合病院）        | …（生理）担当     |
| …植木 基彦（けいなん総合病院）         | …（組織）担当     |
| …笹川 亮（上越総合病院）            | …（血液）担当     |
| …藤沢 芳子（柏崎総合医療センター）       | …（細菌）担当     |
| …吉田 賢一（小千谷総合病院）          | …（学術）担当     |
| …戸田 誠二（長岡中央総合病院病理部）      | …（病理）担当     |
| …小浦方真弓（三条総合病院）           | …（一般）担当     |
| …斎藤 佳子（あがの市民病院）          | …（生化）担当     |
| …中東 哲夫（村上総合病院）           | …（検査システム）担当 |
| 会計…佐藤 治子（長岡中央総合病院）       |             |
| 会計監査…山崎 健作（柏崎総合医療センター）   |             |
| 検査システム委員…中東 哲夫（村上総合病院）   |             |
| ホームページ委員…山川 栄一（けいなん総合病院） |             |

◎平成30年度研究班役員（所属は当時）

【一般検査研究班】

- 班長…漆山 徹（小千谷総合病院）  
 副班長…野澤 昂朗（柏崎総合医療センター）  
 副班長…堤 恭子（佐渡総合病院）  
 事務局…船山真理子（長岡中央総合病院）

【微生物研究班】

- 班長…小柳 洸士（佐渡総合病院）

副班長…松田真由美 (あがの市民病院)  
副班長…渡辺 翔太 (けいなん総合病院)

【血液研究班】

班長…草野 号 (糸魚川総合病院)  
副班長…大倉 哲夫 (村上総合病院)

【病理細胞診研究班】

班長…多田 真人 (長岡中央総合病院病理部)  
副班長…水落 幸希 (糸魚川総合病院)

【生化学研究班】

班長…佐藤 卓 (新潟医療センター)  
副班長…近藤 善仁 (あがの市民病院)  
副班長…笹川 亮 (上越総合病院)

【生理研究班】

班長…小池 信代 (柏崎総合医療センター)  
副班長…板橋 由恵 (村上総合病院)  
副班長…佐藤真理子 (新潟医療センター)  
副班長…植木 基彦 (けいなん総合病院)

・平成29年度最優秀演題、優秀演題表彰

●最優秀演題

【肺炎マイコプラズマ感染症における各種診断検査の有用性の検討】

藤田 勝嘉 主任技師 (上越総合病院)

受賞理由: 銀増幅 IC 法が遺伝子検査に代表される LAMP 法を基準とした感度・特異度一致率は良好であり、マイコプラズマ感染症の的確な診断の補助として有用性を証明したことに加え、対照試薬のメーカー公表データの信頼性が度を越える低い結果であったことから、試薬導入の検討にはしっかりとデータ取りをすべきであると考えさせられた症例でもあった。

●優秀演題

【CK-MB 逆転現象を契機として推測されたマクロ CKtype1 による CK 持続的偽高値の一例】

近藤 善仁 技師 (あがの市民病院)

受賞理由: 迅速性・汎用性・経済性の観点から生化学自動分析装置を用いた検査項目が増えている。一方で、試薬が改良されてはいるが、免疫阻害法による偽値である可能性は解消されていない。汎用機の限界と臨床症状、患者データから総合的な判断力を身につける必要性を示した演題である。

要旨: 特別講演は、悪性リンパ腫を理解するための基礎知識～リンパ系のしくみから可溶性 IL-2 レセプター [sIL-2R] の意味するところ～という内容で、積水メディカル株式会社検査事業部統括部カスタマーサポートセンター学術・技術グループマネージャーの服部和久先生から御講演頂いた。リンパ球の循環やリンパ節の構造など、基本的な内容からわかりやすくご説明頂いた。以下に要約する。

悪性リンパ腫はリンパ球が遺伝子変異により腫瘍化しリンパ節などに腫瘤を作り全身性の症状を示す疾患である。悪性リンパ腫の種類や悪性度の分類、頻度、予後についても理解し、適切な治療が必要となる。可溶性 IL-2 レセプターはリンパ節生検を判断する 1 つの検査マーカーであり診断後は優れた経過観察マーカーといえる項目である。しかし悪性リンパ腫だけでなく、リンパ球が活性化する疾患では高値化する可能性があるため、診断にはリンパ節生検や腫瘍生検が重要であり、悪性リンパ腫確定のためには病理組織診断、細胞表面マーカー分析、染色体検査、遺伝子検査が必要となる。可溶性 IL-2 レセプターは非ホジキンリンパ腫、ATL の診断目的で測定した場合に算定でき、治療効果の判定や、再発の早期診断の際に有用となる。

一般演題は輸血部門、生化学部門、生理部門から 3 演題の発表があった。輸血部門は、高頻度抗原に対する抗体が疑われた場合の対応として、詳細にまとめられた報告であった。生化学部門はピロリ菌について理解を深めて頂くために市民講座を開催し、検査数の増加に繋がった症例であり、市民の健康に対する関心に沿う発表であった。生理部門の発表は非常に稀有な症例であり、貴重な情報共有となった。

各研究班は班長の改選などを行い、今後の活動計画や検討事項が合議されるとともに、講義も行われた。

【平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会生理研究班研究会】参加人数: 48名

日時: 平成30年9月22日 (土)

会場: JA 新潟厚生連長岡中央総合病院 講堂

講師: 新潟県労働衛生医学協会 関根 厚雄 先生

要旨: 受講者48名で「腹部超音波検診マニュアル」について労働衛生医学協会の関根厚雄先生から講義して頂いた。2014年に腹部超音波検診マニュアルが発表され、これらの基準を広く普及させることにより、腹部超音波検診の検査法の質的向上と均質化および、がんに対する判定基準の共通化を目指したいという目的から研修会を行った。初めに関根先生からマニュアルについて講義して頂き、肝・胆嚢・肝外胆管・脾・腎・脾・腹部大動脈、それぞれのカテゴリーと判定区分について分かりやすく説明して頂いた。次に実際に超音波装置を使用してのライブデモを行った。一連の検査の流れを見せて頂き、臍尾部や総胆管の描出テク

ニックを教えてください。受講者は今回の研修会で得た知識を今後のルーチンワークにおおいに生かし、診断の一助として役立てて頂きたい。

【平成30年度 JA 新潟厚生連臨床検査技師会秋季研修会】参加人数：138名

日時：平成30年11月3日（土）

会場：新潟県厚生連中央看護専門学校 講堂及び各教室

・特別講演

『臨床検査技師の業務拡大への取り組みについて（病棟検査技師等）』

丸田 秀夫 先生 一般社団法人 日本臨床衛生検査技師会 常務理事

・一般演題

座長…石井 幸恵 技師（長岡中央総合病院）

1. 『便培養から *Yersinia enterocolitica* を分離したエルシニア腸炎の1例』

…佐藤 駿 技師（佐渡総合病院）

2. 『尿中肺炎球菌抗原キットと培養との一致率についての検討』

…樺沢 政也 技師（上越総合病院）

3. 『*Clostridioides difficile* 迅速診断キットの分離培養併用法によるトキシゲン検出感度の向上』

…笹川 亮 技師（上越総合病院）

座長…藤田 陽介 技師（糸魚川総合病院）

4. 『心カテーテル室での臨床検査技師の役割』

…三富 圭 技師（新潟医療センター）

5. 『溶血検体を防ぐための当院での取り組みについて』

…藤田 勝嘉 主任技師（上越総合病院）

6. 『生化学汎用自動分析装置におけるインスリン試薬の性能評価と臨床的有用性

—ノルディア®インスリン中心とした比較検討—』

…近藤 善仁 技師（あがの市民病院）

座長…嶋川 淳 技師長（佐渡総合病院）

7. 『日立自動分析装置導入に伴う仕事の効率化と試薬単価について』

…小池 芳一 技師長（上越総合病院）

・施設代表者会議

・分科会

＜一般検査研究班＞ 参加人数：12名

議事

・新役員の選出

10月1日付異動及び内部ローテーションに伴う副班長2名の交代を報告

班長…漆山 徹（小千谷総合病院）

副班長…渡辺 直樹（柏崎総合医療センター）11月3日より

副班長…谷川 恵（佐渡総合病院）10月1日より

事務局…船山真理子（長岡中央総合病院）

講義

『CKD・糖尿病性腎症重症化予防の重要性と尿検査の役割』栄研化学株式会社

＜微生物研究班＞ 参加人数：15名

講義

『医療関連感染で問題となるESBLおよびCREとその対策』極東製薬工業株式会社

＜血液研究班＞ 参加人数：13名

講義

『血液形態の症例検討会—装置データを活用し形態を予測する—』

シスメックス株式会社

＜病理細胞診研究班＞ 参加人数：10名

議事

・各施設意見交換

・遺伝子変異検査

EGFR、ALK、ROS1の概要と注意点について

・免疫チェックポイント

PD-L1検査の概要と注意点について

＜生化学研究班＞ 参加人数：17名

議事

・生化学研究班運営規程について

・各施設の分析装置・試薬の現状報告

・生化学統一試薬の見直し申請書の承認方法検討

・生化学研究班での勉強会等の要望

＜生理研究班＞ 参加人数：34名

講義

『呼吸機能検査の基礎（スパイロ〜精密検査、サーバイまで）』

株式会社フクダ産業

要旨：特別講演は『臨床検査技師の業務拡大への取り組みについて（病棟検査技師等）』として一般社団法人日本臨床衛生検査技師会常務理事、丸田秀夫先生から臨床検査技師の今後の方向性について御講演頂いた。以下に要約する。

医師や看護師等の病棟スタッフは現在の安心安全を求められる医療体制から非常に多忙な状況であり、臨床検査技師に専門的な検査領域について任せたいとする要望が多い現状がある。この現状から厚生労働省では平成19年に各医療機関の実情に応じた適切な役割分担と、チーム医療の推進について提言した。当初、なかなかチーム医療に貢献できず、厚生労働省が提案した医療スタッフが実施することのできる具体的業務では、その他職種に一括されてしまった過去の苦い経験。そこから脱却するためにはチーム医療として、ICT、NST、糖尿病指導などに加えて、病棟では、採血などの検体採取、検査説明・相談、認知症患者への対応、医療安全、救急医療技術が求められる。たとえば検体採取では、採血に加え法改正により鼻腔や表在などの検体採取が新たな業務として追加された。検体採取等に関する厚生労働省指定講習会に参加し、今後の検体採取に関する変化に対応できるように準備する必要がある。また検査説明・相談ができる臨床検査技師育成事業を全国展開し臨床検査技師自らが、診療に参画することを見据えた。また実際に臨床検査技師が病棟業務を行うことでインシデントの減少に繋がった例もあり、臨床検査技師の病棟業務は医療安全において必要であると考えられる。最近の医療の話題として人工知能による医療現場の影響が多く取り上げられている。人工知能に利用されずに活躍していくためには、患者に直接的な医療を提供し、臨床検査データに基づき他職種と協働することである。しかし病棟業務や、在宅医療などの業務追加の理解を得るための解決策や、検査科の人員の問題など課題があるのは事実である。このような新たな業務が診療報酬に収載されるには、数多くの施設においてのエビデンスが必要となる。そのためにも多くの施設でまずは病棟業務の事例を重ねていただき、その情報を収集・解析し厚生労働省へ提示していきたいと考えている。

以上の内容で御講演頂いた。今後の臨床検査技師の立場を深く考えることができ、また、講演時間を大幅に超える質疑等もあり、とても有意義な講演となった。

一般演題は7題で細菌部門、生理部門、生化学部門、管理部門など多岐分野にわたっていた。質疑応答も沢山あり活気があふれ充実した内容であった。

各研究班では講師を招いた講義、業務上の情報共有や今後の活動、新役員についてなどが検討され、活発な分科会となった。

【平成30年度学会派遣状況】

第67回日本医学検査学会

静岡県浜松市：平成30年5月12日（土）・13日（日）

代表派遣7名

小杉 久良（上越総合病院）

近藤 善仁（あがの市民病院）

貝沼 宏樹（糸魚川総合病院）

松尾 洸（柏崎総合医療センター）

新田 敏貴（長岡中央総合病院）

中野佳菜子（長岡中央総合病院）

小林 裕真（村上総合病院）

[順不同]

第7回日臨技北日本支部医学検査学会

青森県青森市：平成30年11月10日（土）・11日（日）

代表派遣5名

藤井 真也（新潟医療センター）

奈良 佳輝（長岡中央総合病院）

西村 梨南（長岡中央総合病院 病理部）

長濱 玲奈（村上総合病院）

遠藤 恭平（佐渡総合病院）

[順不同]